

予防接種のスケジュールが変わっています！

そもそも予防接種（ワクチン）とは何でしょうか？そうです、病気にならないために先人達が考えついた予防方法ですね。200年前に英国のジェンナーが種痘（牛痘）を考案したのが予防接種の始まりです。

天然痘という全身に膿疱（うみ）を生じ、治癒しても瘢痕（あばた）を残すことから「悪魔の病気」と恐れられていました。天然痘ウイルスは非常に強い感染力を持ち、致死率は約40%とされています。私も子どもの時に接種されましたが「種痘」によって天然痘が撲滅され、そのため1976年以降日本では施行されていません。

さて、従来の乳幼児の予防接種に今年から公費負担で2つのワクチンが加わりました。「インフルエンザ菌（アクトヒブ）」と「肺炎球菌（プレベナー）」のワクチンです。これらのワクチンが始まり、乳幼児の予防接種のスケジュールが一変しました。

これまでは生後3か月になったらBCG、1か月後にはDPT(3種混合)を3回続け、その間に集団接種でポリオを受けるのが一般的でした。しかし、**予防接種を受ける順序は、罹患したらより重症になる（死亡率が高い、後遺症が残る）病気から予防しようという考えに変わってきました。**

そのお奨めの接種スケジュールは、

生後2か月：アクトヒブ①+プレベナー①

3か月：DPT①

+アクトヒブ②+プレベナー②

4か月：DPT②

+アクトヒブ③+プレベナー③

1週間後：BCG

5か月：DPT③

となります。

生後3か月からスタートする児はDPT①+アクトヒブ①+プレベナー①の同時接種を勧めています。同時接種をしない場合にはクリニックへ計10回通うこととなりますので赤ちゃんへの負担がむしろ大きくなり、その間風邪などひいたりして予防接種が必要な時期に受けられなくなるリスクがあるのです。

(1) アクトヒブ+プレベナーで**細菌性髄膜炎をまず予防**し、(2) その次にDPTによる**百日咳を予防**し、(3) **結核の予防接種**であるBCGは優先順位が後になります。但し、6か月までにという縛りがありますので注意が必要です。(4) ポリオは集団接種ですが過去20年間日本では1例も発症していませんので、他のワクチンとかち合った時には次回ということになります。

欧米では導入されているワクチンが、日本では承認されていないため使えない状況を「**ワクチンギャップ**」と言い、日本は「**ワクチン後進国**」とも言われ続けています。

欧米ではB型肝炎ワクチン、水痘ワクチン、おたふくワクチン、髄膜炎菌ワクチン、ロタウイルスワクチン、ポリオ不活化ワクチンなどが**定期接種**で行われています。日本も早く欧米並みにワクチンが定期化され、少なくとも「ワクチンで防げる病気」から子ども達を守ってやりたいと願っています。

(たまなは)

※ VPD(Vaccine ワクチン、Preventable 防げる、Diseases 病気)

